

▲▽新造船「おーろら3」安全祈願祭&お披露目▽▲

—道東観光開発株式会社—

1月11日、流氷観光砕氷船「おーろら」を運航している道東観光開発株式会社では、道の駅「流氷街道網走」構内で、新造船「おーろら3」の安全祈願祭を執り行った。これは新造船の1月20日からの運航開始に向けて、航海安全を祈願するもので、祈願祭の後、「おーろら3」のお披露目と試乗会が行われた

世界遺産（自然遺産）知床半島の海と冬季の網走流氷観光

道東観光開発の高橋晃社長は、お披露目のあいさつで「厳しい時期を乗り越えてきた中で、おーろら3は観光復活の想いを込めて、外装は自然・再生を意味するエメラルドグリーンと、乗船してくださるお客さまや地域の皆さまの幸福を祈念するオレンジの2色のカラーを決めた」と、船体カラーの由来を説明した。

新造船「おーろら3」は、会社初の小型旅客船の就航となり、これまで大型船「おーろら」と「おーろら2」で運航していた遊覧観光について、旅客の要望などを社内で検討した結果、小型船の運航を合わせての相乗効果を期待するものとなった。

船体の外板はアルミ軽合金で建造され、流氷帯が陸から離れているときに流氷まで近づき流氷観光を楽しめるほか、水中ドローンで海中から流氷や生物も楽しめるよう準備している。

今季は予約を受け付けず当日客のみ受け入れ、安全確保の観点から冬季旅客定員は24名に制限し、法定備品の救命浮器に加え救命いかだを搭載し安全対策を向上させた。

中村忠義船長は「おーろら3」就航に際し「従来から安全対策を徹底しており、おーろら3就航についても、安全で安心できる運航に努めますので、流氷を楽しんで良い思い出をお土産にさせていただきたいと思っています」と語った。

一方、流氷観光砕氷船「おーろら」は、冬季観光の主力であり、船体の重さを活かし流氷を押し割り進む豪快さが特徴。砕ける流氷を体感できるほか、野生動物も観察できる素晴らしい観光船として人気を集めている。過去3年間はコロナ禍の影響を受け厳しい状況であったが、今季シーズンは予約状況も徐々に回復し、コロナ禍前の8割まで戻ってきている。現場では旅客の安全対策を徹底し、流氷観光シーズンに期待している。

4月28日からは知床観光船の運航を予定しており、中村船長は「観光客が安心して観光を楽しめるよう安全対策を徹底しており、2隻のそれぞれの特徴を活かし、大型船『おーろら』では、ゆっくりした船旅で知床岬を楽しんでほしい『おーろら3』では速力、海面の近さ、熊や滝など、一味違う大自然の知床を体感してほしい」と語った。